

点訳について

「点訳」とは、晴眼者が使う文字（墨字という）を視覚障がい者の方々が利用する点字に翻訳することをいいます。点訳には、従来は点字器（点字盤や点字タイプライターなど）を使っていましたが、現在はパソコンを使っています。これは、全国にある点字図書館がネットワークを組んで、どこで点訳したものでも、全国どこからでも利用できるようにということで、パソコンで点訳したデータを1か所（センター）へ集めて管理しているシステム（サピエ図書館）になっているからです。

点訳ボランティアが悩むのは、墨字の文章を正しく読んで、点字の書き方の規則に従い書いていきますが、特に地名・人名の読み方です。

「東さん」という方は「ヒガシさん？」あるいは「アズマさん？」。最近の子ども達の名前も難しいですね。また、「日本」は「ニッポン」「ニホン」「ヤマト」「ヒノモト」など、前後の文章表現によって読み方がかわってきますので注意が必要です。

点訳は基本的には自宅で行う活動ですので、今のコロナ禍のときでも楽しく活動を続けていけます。もし、点訳に興味のある方はご連絡ください。

（松阪点訳友の会 高瀬記）